# 新規作物「青パパイヤ」の低コスト増収技術

農業技術研究センター（高収益畑作担当）

キーワード：青パパイヤ、黒マルチ、側条施肥

## 1　技術の特徴

「青パパイヤ」とは熱帯果樹であるパパイヤの未熟果であり、栽培がしやすいことから新たな野菜品目として県内での生産が増えつつある。しかし、収穫期間が限られ、十分な収量が得られないことや肥料価格の高騰による施肥コストの増加などが課題であった。そこで被覆資材による初期生育促進と追肥の局所施肥による低コスト生産技術を開発した。

定植時に黒マルチで被覆すると初期生育が促進され、開花始と収穫始が早まることで収穫期間が拡大し、収穫個数と収量が増加した。また、追肥を側条施肥にすることによって追肥の施用量を削減できた。

## 2　技術内容

（1）　初期生育促進技術

定植時に黒マルチで被覆することで初期生育が促進され、主茎長は定植直後から慣行の無マルチ栽培を徐々に上回り、特に6月以降の生育差が大きくなった（図1、写真1）。それに伴って開花始と収穫始が慣行より2週間程度前進し、収穫期間が拡大することで収穫重量、個数が慣行の約2倍になった（表1）。

（2）　効率的施肥技術

追肥をパパイヤの外葉直下の畝両肩に施用（側条施肥、図2）すると、慣行の全面施肥に比べ生育・収量は同等で、追肥量を4割削減できた（図3）。基肥を含めた全施肥量でも慣行の約3割減と施肥コストを低減できた。

## 3　具体的データ

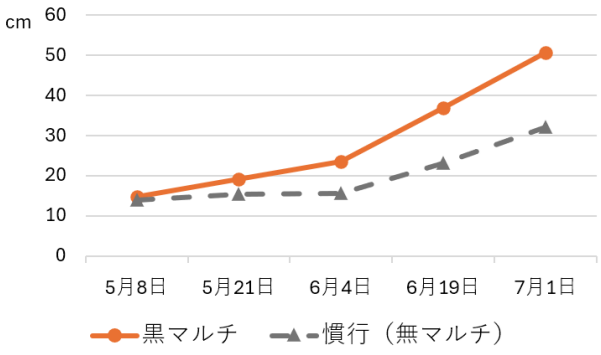



図1　主茎長の推移（雌株、2025年）




写真1　初期生育の違い（2025年6月27日）

表1　開花始、収穫始および収量（雌株、2025年）

| マルチ有無 | 開花始（月/日） | 収穫始（月/日） | 収穫総個数（個/株） | 収穫総重量（kg/株） | 収量（t/10a） |
|---|---|---|---|---|---|
| 黒マルチ | 7/8～7/10 | 8/20 | 41.1 | 22.3 | 3.0 |
| 慣行（無マルチ） | 7/22～7/28 | 9/9 | 18.7 | 8.6 | 1.1 |

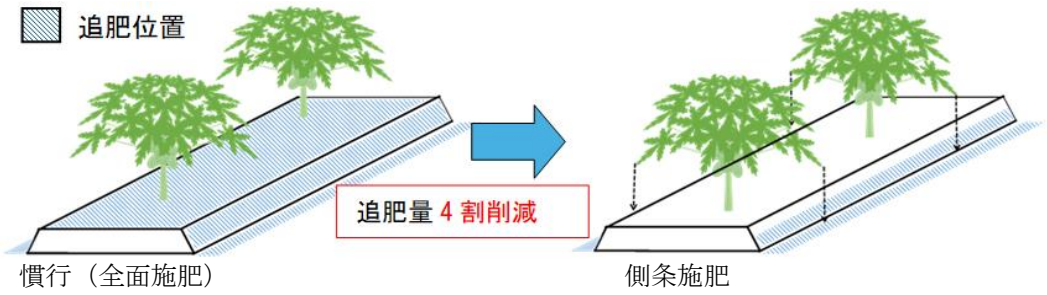



図2　低コスト追肥技術

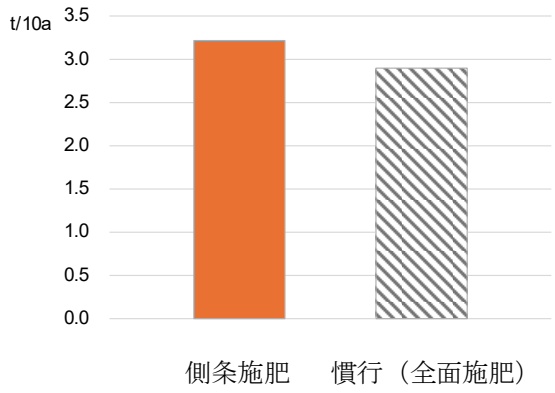



図3　追肥方法と収量（雌株、2023年）

## 4　適用地域

県内全域

## 5　普及指導上の留意点

（1）　6月に入ると、茎の肥大が急速に進むため、マルチに接触した株元が、高温によって焼け症状を起こし、そこから腐敗し倒伏に至ることがある。そのため、6月以降は株元がマルチと接触しないよう適宜マルチの穴を広げ、6月下旬～7月上旬の1回目の追肥時に合わせてマルチを除去する。

（2）　青パパイヤの栽培方法や技術内容の詳細は埼玉県農業技術研究センターホームページの高収益作担当ページ内「青パパイヤ露地早熟栽培（マルチ）マニュアル」を参照。

## 6　試験課題名（試験期間）、担当

青パパイヤ増収技術の開発（2022～2025年度）、高収益畑作担当